日々の自己紹介が育む共同学習

前川　良太

４月の１か月間はつばさだけでなくアトムで自分の息子のクラスの懇談会にも参加していました。なんだか毎週のように懇談会に出ていたような気分です。年度初めということもあり、どのクラスも大人同士自己紹介し合うようなテーマがほとんどでした。互いを知り、ともに子育てする仲間になっていきましょう。そんな担任たちのメッセージです。その輪の中には私たち職員も混ざりながら、保育士保護者関係なく一人の人として一緒に語り合います。懇談会での自己紹介ではプロフィールに留まらず、最大限相手に理解してもらおうと自分自身を要約し、その言葉の中にその人らしい空気を含んでこちらに伝わってきます。けれどどんなに言葉を尽くしてもその人のすべてを知ることはできません。ぞう組の懇談会では「他人と意見が違った時どうする？」という質問に「周りに合わせる」と口々に答えた保護者たちでしたが、合わせようにもあふれ出る「その人らしさ」を持っていることをこれまでの関係の中で知っているので、『ほんまかいな』と心でツッコんでいました。実際に「他人と意見が違った時」は機械とは違っていつも同じ反応なわけではありません。相手との関係性やことがら、その日の気分や天気にさえ影響されることだってありませんか？

私もかつて「意外と根は人見知りです」と自己紹介していたのですが、あまりにも信じてもらえなくて言うのをやめてしまいました。自覚している自分と、他人の思う自分には往々にして違いがあるものですね。むしろ「人見知りです」「周りに合わせます」とラベリングされた言葉だけ受け取ってその人を知った気になることで、本来のその人を見失うことすらあるような気さえします。じゃあ自己紹介っていったい何…？

私は、本来の自己紹介は伝えて終わり聞いて終わりのその場限りではなく、日常性の中でこそ育まれるものだと考えています。言葉だけでなくてともに過ごす中で相手を知るからこそ、違いが見え、その違いがまた自分自身を見つめさせ、また新たな発見があるのです。それこそが懇談会の目的である“共同学習”ではないでしょうか。そのことを私に教えてくれたのは他でもない子どもたちです。

子どもたちは自分自身を言葉で紹介するなんてことはしません。だけど言葉を持たない赤ちゃんだって互いのことを知っています。それなりの年齢になれば彼はこんな時に怒るねんな、とか、プリプリ怒る割にほんまはやさしいねんな、とか、感覚的に互いのことを本当によく知っています。だけどそんなことに行きつくまでには数えきれないほどぶつかり合い、葛藤する日々があります。そうして分かったと思っても、またなぜか昨日と今日では反応の違うことも。だから「なんでやろうな～」と首をひねったり、または逆に怒り返してみたりするのです。そうして言葉で「怒りんぼ」と知るのではなく『あぁ、こういう時に怒るねんな』と言葉の余白の部分を包み込むように全身で知っていくのです。その中で自分とは違う存在を通して、また自分のことも知るのです。本当の意味で相手を知るにはこんなめんどくさい日々の積み重ねこそ不可欠で、簡単に言葉でラベリングすることで分かった気になってはいけないのでしょうね。“トラブルは自己紹介の最大の機会”というのはおっこちゃん（市原前理事長）の言葉ですが、私と違う誰かの存在に気づくことこそが相互理解の機会であり“共同学習”の一歩目です。そんな日々を地で行く子どもたちを見ていると、私たち大人の日々を振り返らざるを得ませんね。

懇談会は共同学習の場です。違う世界を生きてきた人たちが、互いの言葉や沈黙にふれて、モヤモヤやひっかかり、違和感を生みます。そんな違和感や自分と相手とは違うということこそ大事にしながら、一緒に集団を編みなおしていくのです。わかろうとするたびにぐらっと揺れて、問いかけるたびにちょっとずつ自分も変わっていく。言葉や知識だけではなく体全部で“知っていく”そんな自己紹介の連続が、ともに生き合う集団をつくるのではないでしょうか。

2025 年 1 月 15 日熊取町こども計画策定の会議コメント

学び合いのなかできた計画

山本健慈（熊取町子ども・子育て会議　委員長
アトム共同福祉会理事　大阪観光大学理事長）

昨年 1 月の本計画の策定の会議スタートから熱心に議論していただいた委員のみなさんに感謝申し上げます。また日常実務と並行し計画策定実務にあたり会議準備および計画書の原案作成に取組まれました担当課のみなさんに御礼申し上げます。

さて本会議を終えるにあたり、委員長としての感想と今後への若干の希望を述べさせていただきます。

第一に、会議の目的は、最終的に「報告」をまとめあげることですが、その過程が重要です。私は座長として、異なった経験をもつ委員が、それぞれの立場から自由闊達に発言し、地域・社会全体でなにが必要であるかについて事務局の行政職員とともに共通認識を形成できるように毎回の会議を進行することに心がけました。その意味で会議は、委員と行政職員の学び合い、共同学習の場であったということを書いておきたいと思います。これは長年培った熊取町の「住民の力」であり、行政職員の住民との「協働」への姿勢であると思います。

第二に、今次の計画は、若者を含んで「こども」とし、これまでの子どもへの施策を超えるものになりました。そのため公募若者委員二人だけでなく、より多くの若者の意見を聞くため、役場職員に「役場若手部会」と作っていただき、一住民の立場から、また自分がかかわる行政分野から意見集約をしていただきました。この試みは、この計画自体にとっても意味があったと思いますが、未来の熊取町行政を担う役場職員が「住民の力」にふれ、住民との「協働」の経験の一端を知る機会にもなったと思います。参加された 20 人の役場職員には、この経験と記憶を役場の若手世代に共有する共に、今後の人生と職務に生かしていただきたいと思います。

第三に前期計画に引き続き「保育所・幼稚園部会」、「放課後児童健全部会」「子育て支援部会」「地域・若者支援部会」を設置し、計画の関係部分についての内容づくりに取組んでいただきました。そのなかで保育所・幼稚園部会をきっかけに公民を超えた事業者同士の恒常的な連携が生まれていることは、長年の計画づくり等での相互理解が生み出したすばらしい果実だと思います。

各部会関係者においては、関連事項について毎年の評価点検に取組んでいただきたいと思いますし、事務局も部会を恒常的な位置づけで運用していただきたいと思います。

最後に私は、1996 年からはじまる熊取町総合福祉計画や 1999 年からはじまる児童育成計画の策定から、今日の「こども計画」策定に連なる町の作業に関与してきましたが、一貫して追求してきたことは、図書館づくり、共同保育所づくり、学童保育所づくりという「住民と行政の協働」の精神と方法を継承することでした。今世紀にはいり子育て支援政策を「次世代育成支援対策」としてバージョンアップするための立法作業が厚生労働省内で着手された際に、私はその作業チームにレクチャーすることを求められました。その会を主宰された政策統括官（のちに事務次官）は、会の前に私に「世間でも政治家も少子化が大変だというが、口ばかりである。財務省まったく財政的手当をする気がない、その政治や財政の在り方を許さないという主権者が生まれる学びのプロセスを地域の計画づくりに組み入れたい。熊取町でやっている住民参加という手法について法案づくりをしている中堅・若手にレクしてほしい」と話されました。この次世代育成支援対策法は 2003 年 7 月施行され、熊取町では 2005 年 3 月「熊取町次世代育成支援対策地域行動計画」として策定されました。本計画は、上記の歴史の到達でもあるのです。

2100 年にむけ、今の日本は人口 5000 万人の時代に向けた歩みをしています。本計画にもとづく事業展開と計画のフォローアップのなかで、人口 5000 万時代の未来が設計できる「主権者」の登場を期待したいと思います。

熊取町こども計画への参画について

2025 年年 3 月に熊取町のこども計画「第 3 期子ども・子育て計画」が策定され、その内容が熊取町のホームページにアップされていることを知っていますか？

検索　⇒　熊取町こども計画　kodomokeikakuhonnpen.pdf

「熊取町こども計画」は、こども基本法に基づき、こどもや若者、こどもの保護者を対象としたアンケート調査や関係団体へのヒアリング、「熊取町子ども・子育て会議」での議論を踏まえ、令和 7 年から 11 年度における本町のこども・子育て支援、若者支援の取組をまとめたものです。基本理念を「多様な『こども・若者の育ち』や『暮らし』を認め合い、支え合う、対話的まちづくり」と定め、様々な施策に取り組んでいくための指針となるものです。

この子ども・子育て会議の座長は、アトム共同福祉会の理事で元和歌山大学学長、現大阪観光大学理事長でもある山本健慈さん。野中　泉園長も民間園の代表としてその策定に参加している他、つばさ共同保育園の保護者折笠知佳さんや、昨年までアトム共同保育園でアルバイトをしてくれていた大阪体育大学の大幸虎太郎君など、公募で選ばれた若い子育て世代の代表や若者代表の委員も一緒にその策定の議論に参加していました。熊取町で、子育てしているみんなにとても関りの深い計画です。興味のある方は、ぜひ、検索してみてください。

次ページには、山本委員長が書かれた策定に寄せられたコメントを掲載します。併せて読んでください。

熊取町民間保育園・こども園の協働について

熊取町には、現在 6 園の民間保育園・こども園があります。実は、この 6 園（アトム・つばさ　西　フレンド　さくら　すみれ）が 2023 年から「協議会」をつくり一緒に活動をしています。

園内にポスターがはってある「就職フェア」も 3 年目。そして、昨年からは 2 か月に 1 回、民間園だけでなく町立の 3 園（中央　東　北）の園長先生や保育課課長と、また必要に応じて子育て支援課、学校教育委員会の担当者とも公民所長会議として、熊取町全体の保育施策について日常的にしっかりお話しをさせてもらう場が定着するなどうれしい前進が続いています。

5 月 29 日には、去年に続き、協議会として藤原町長との懇話会を予定しています。「子育てに優しいまち」がキャッチフレーズの熊取町ですが、少子化、不登校の問題、障害児保育の課題などたくさんの問題が山積みです。行政に、現場の声（要望）を届けながら、一緒に考え合う活動を続けていきたいと思っています。

事務室前に置いてあるペットボトルのキャップを集める活動（途上国にワクチンを届ける活動）を通して、そんな民間園の協議会の活動、熊取町全体の子育て施策への働きかけを応援してください。